思考、錯誤の漂流記

マウントスリー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思考、錯誤の漂流記

【Nコード】

N0306Z

【作者名】

マウントスリー

【あらすじ】

五十嵐流治は歩いていた。ギーギー音がするリヤカーを引きながら。リヤカーに積まれた荷物は数十冊の本と、刀や銃等の美術品や骨董品。全て小説家である流治の祖父が、資料として友人知人から借り受けた物だ。流治は祖父に逆らえない。喝の一声と共に、祖父の代わりに資料を返却しに出かけたのだった。面倒臭いけど、ただそれだけの事。次の角を曲がればまず最初の返却先、……の筈だった。*異世界トリップ物。ハーレムとかそういう感じのにしていきたい。

プロローグ：ああ、嫌んなっちゃうな

「痛え……」

殴られた頭がジンジンと痛む。

血だ、血が出てる。

頭から流れた血が口に入り、生臭さと鉄錆のえぐい味が気持ち悪い。

骨はどうなんだ？

何せ鉄の塊で殴られたんだ、ヒビくらいは入ってるかも。

手で触って確認したいけど、俺の体はロープで頑丈に縛られていて自由に動かせない。

その上うつ伏せに転がされて、背中を容赦なく足で踏んづけられている。

その足の持ち主は、俺の頭をブン殴った張本人だ。

唯一自由に動かせる首を捻って、その姿を視界に収める。

「*****？」

「*****」

他の仲間と話しているみたいだが、英語でも日本語でもない言葉で喋っているせいで、会話の内容は全く理解出来ない。

喋っているのは褐色の肌に銀色の髪。細長い耳にやけに整った顔立ちの女達。明らかに日本人じゃない。こんな美人、テレビでも見た事がない。

まるでファンタジーの世界に出てくる、エルフ。そう、ダークエルフだ。

ダークエルフのコスプレをしたイカレ外人……なわけないか。

コイツ等が手に持っている血に濡れた剣と、俺の横で脳髓をぶちまけて死んでいる 化物達ゴブリンが、俺の甘い考えを否定する。

ああ、夢だつたら良いんだけどな。そんな事を考えていると、またズキリと頭が痛む。

「ああ、嫌んなっちゃうな」

俺を無視して、ダークエルフ達はまだ何か話している。

頭が痛い。理不尽だ。足をどける。そもそもワケのわからない言葉で喋るなよ！

「……日本語で喋れよ、クソツタレ」

悪態が耳に入ったのか、それとも俺の処遇が決まったのか。

背中を踏んづけていた女が足をどけて顔を覗き込んでくる。

近くで見ると改めて思う。

綺麗だ。

それも、このダークエルフ達の中でも別格と言っている。ゾツとする程に。

たぶん、この集団のリーダーか何かなんだろう。

手下を従える奴特有の雰囲気。ジャイアンみたいなオーラを感じる。

現に他の奴等はこの女を中心に動いている、気がする。

だけどコイツはクソ女だ。

いきなり俺を殴りつけやがった。剣の腹とはいえ、思いつ切りだ。

打ち所が悪ければ死んでたっておかしくない。

何より、明らかに俺を見下して見ている。

空気が悪い。剣呑な雰囲気伝わってくる。

俺も、横のゴブリンみたいに殺されちまうのか？

冗談じゃない！

せめて拘束されてなければ、まだ手はあったのに。

ああ、悔やんでも悔やみきれない！

このまま終わるくらいなら……。

「……もっと近くに来いよ」

「*****？」

小声で喋ったから、よく聞き取れなかったんだろう。

更に顔を近づけてくる。

……この距離なら、届く！

「隙あり！」

突然の大声に、コイツは反応出来ていない。

俺は思いつきり体を伸ばして、このダークエルフにキスをした。

いや。

直前までは色々考えてたんだ、唾をかけるとか鼻を食い千切るとか。

なのに気が付いたらキスをしてた。

ああ、これが生存本能ってヤツか。

俺も男だもん、しょうがない。だってコイツ、顔はスゲー綺麗なんだもん。

「……………」

即座に斬り捨てられるかと思ったけど。

よっぽどシヨックだったのか、俺のキスの相手はピクリとも動かない。

その代わり、周りの手下が騒ぐ騒ぐ。

「*****!!!!?」

「*****!」

「*****!!!!!!」

………思っていたより、大事みたいだ。

俺をすぐに殺すべきだ！ みたいな感じが、この剣幕だと。

ダークエルフにとって、キスするのはよっぽど特別なものなのか？

単純に、俺みたいな怪しい奴が相手するのが問題なのかもしれないけど。

まあ、どつちにしろ。

「ははっ、ざまあみろっ！」

つてなもんだ。

プロローグ：ああ、嫌んなっちゃうな（後書き）

ご意見感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0306z/>

思考、錯誤の漂流記

2011年12月1日02時57分発行